



ガーデニングやDIYをゆるく楽しみたい

室内のような 屋外空間がある家

内田さん邸

OWNER'S VOICE

外とシームレスでつながる
オープンな家を目指しました

内田さんが暮らすのは自然豊かな街。自然をそばに感じながら、オフの切り替えがしやすい家を目指したそう。その核となるのが仕事場でもある土間です。靴で上がれる土間にすることで、生活空間と、しっかりと分けました。土間から続くのは屋根のあるテラス。ここでは子どもたちが遊んだり、家族でごはんを食べたり、趣味のDIYをしたりと家族が思い思いにすごします。「四季折々に異なる風景を望め、気持ちよく仕事ができています」と内田さん。仕事と日常生活がシームレスにつながる間取りが、充実した暮らしを送れる源になっているようです。

FLOOR PLAN

夫婦と子ども2人が暮らす内田さん邸。趣の違う平屋と2階建てが合体したような個性的な外観が特徴。約11畳の土間に加えてテラスもしっかりスペースをとり、外とのつながりをもたせています。



住宅DATA

竣工：2021年3月
 延床面積：135.38㎡ (40.95坪)
 (1階／85.70㎡ 2階／49.68㎡)
 構造・工法：2階建て (木造軸組工法)
 設計・施工：HUGHOME



土間スペースは仕事場兼 アウトドアグッズの お手入れ場

自宅とオフィスを兼ねる内田さん邸は、土間スペースが仕事場。建物の東側に位置し、リビングから廊下を通して入ります。仕事のスイッチが入るように床をモルタルで仕上げたのがポイント。多少の汚れも気にならないので、オフの時間はスノーボードにワックスをかけるなど、アウトドアグッズのお手入れをする作業場としての顔もあります。



土間スペースへと続く廊下の床もモルタル仕上げ。アウトドアグッズの収納棚もあります。外へとつながるドア(写真左)も設けたので、荷物の出し入れがスムーズ。



土間スペースは子どもがゲームをしたり、勉強したりする場所としても活躍。

POINT

玄関に設けるシンクは
デザイン性を大切に！

最近の住宅でよく見かける、玄関に手洗い場を設ける間取り。お客さまの目にも触れやすい位置にあるので、デザイン性の高いシンクや水栓金具を選んで。



屋外の南側にも家族の憩いの場があります。家族が座るベンチは、建築の際に余った構造材を使って、大工さんが作ってくれたそう。休憩したり、荷物置き場に使ったりと重宝しています。また、軒を深くとったことで、雨の日でもぬれずに済みます。予算をあまりかけずに半屋外にくつろぎ場をつくりたいときに、参考になるアイデアです。

軒を広くとり
ベンチを置いて
憩いの場として活躍



ベンチに座って、庭で遊ぶ子どもや愛犬を眺めるのが楽しみだそうです。

生活動線をよくするため サニタリーに物干し場につながる 勝手口を設けました



サニタリーの勝手口を出ると、洗濯物干しスペースがあります。外から見えないように目隠しの壁や屋根を設けているので、安心して干せるそう。

オフ時間を楽しむために、家事にあまり時間はかけたくないもの。そこで、間取りを考える際、家事動線をよくするための工夫も必要です。内田さん邸では、屋外の洗濯物干しスペースに隣接するようにサニタリーを配置しました。家族4人分のたくさんの洗濯物を、洗ったらすぐに干せるから助かっているそうです。



キッチンには動きやすさを考慮してL型に。体の向きを変えただけで料理ができます。カウンターはお酒を収納したり、バー感覚で飲んだりするのにちょうどいいとか。

個室にクロゼットがなくても すっきり保てる



**共用スペースに
クロゼットがあることで
片づけが習慣化されます**

個室をつくる際、クロゼットもあわせて用意するのが一般的です。でも、ある建築士が実際に暮らしている人たちにヒアリングしてみたところ、個室のクロゼットをフル活用している人より、持て余している人のほうが多かったそう。そこで、個室には日用品などをしてしまうための必要最小限の収納スペースを確保しておき、服は家族全員分のものを集約できる大型クロゼットを用意し、そこにしまってしまう手もあります。個室が服で散らかることがなく、見た目もすっきりします。

オフ時間を楽しめる家

06

自転車いじりや植物のお手入れをのびのびしたい

自分だけの屋外スペース! ピロティがある家

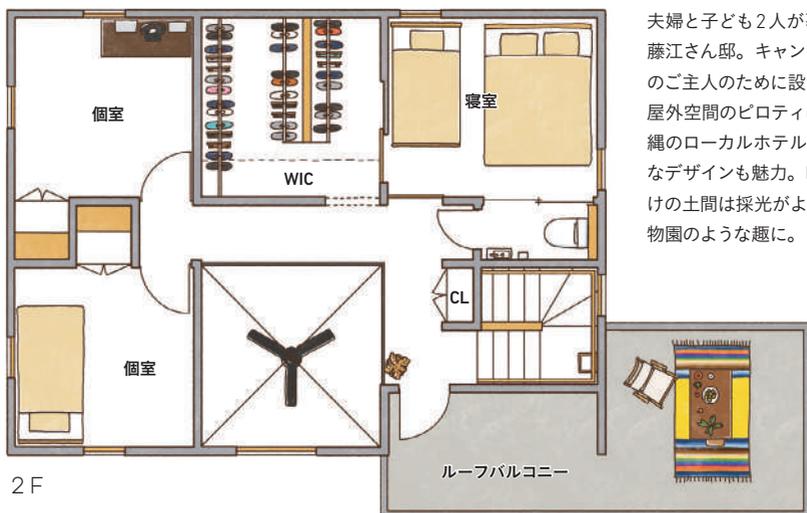
藤江さん邸

OWNER'S VOICE

たくさんの緑に囲まれた
植物園のような家を
目指しました

藤江さん家族がそれまで住んでいたのは社宅や賃貸アパート。子どもたちが大きな音を立てるたびハラハラしていたそうで、家族がのびのび暮らせる住まいを目指して家づくりを始めました。間取りのポイントは、玄関からダイニングへ続く土間。ご主人の趣味のキャンプ用品の手入れをしたり、夫婦が好きな植物を育てたりと、今までの住まいではできなかった楽しみを満喫しています。ダイニングの吹き抜けからは明るい日差しが入り、「植物も元気に育ってくれています」と奥さまも「満悦開放的で明るい空間に、子どもたちも幸せそうです」。

FLOOR PLAN



夫婦と子ども2人が暮らす藤江さん邸。キャンプ好きのご主人のために設けた半屋外空間のピロティは、沖縄のローカルホテルのようなデザインも魅力。吹き抜けの土間は採光がよく、植物園のような趣に。



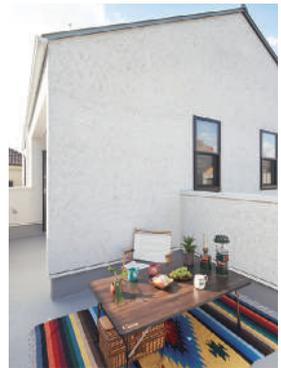
住宅DATA

竣工：2022年3月
 延床面積：99.77㎡ (30.18坪)
 (1階 / 55.06㎡ 2階 / 44.71㎡)
 構造・工法：2階建て (木造軸組工法)
 設計・施工：HUGHOME



ピロティは雨や強い日ざしを避けるのにも役立ちます

ピロティとは建物の1階部分に設けた、柱だけを残し外部に開けた空間のこと。駐車場やガーデンスペースとして活用でき、限られた敷地に建物を建てるときに有効です。藤江さん邸では建物正面から玄関のある東側にかけて設けました。2面に壁を設けたのでプライバシーも守れて、通行人の視線を気にせず外気分を味わえます。しっかりと壁で防いでしまうと落ち葉やホコリがたまりやすいので、風が通る“抜け”を設けることをお忘れなく。



右：ピロティの上部はバルコニーにしました。手すりを高くとり、外から見えないようにして、おうちキャンプを楽しんでいるそうです。左：風の通り道をつくるため、沖縄の花形ブロックを採用。ピロティは車の荷下ろし時の一時置きやレインコートの着脱にも便利なスペースです。



土間に椅子を置けばリビングのような使い方ができます。藤江さん邸ではピアノを置き、子どもたちの音楽のレッスンコーナーにも。

玄関を入ると土間が広がります。植物好きのご夫婦にとって水やりしやすい土間はありがたい場所。吹き抜けにし、天窓もあるので光がたっぷり入り、植物にはいい環境です。そんな土間に面しているのはダイニング。南に面した明るい位置なのでリビングを配置しがちですが、藤江さん家族は食卓です。ここが多いため、この配置に。

**土間＋吹き抜けにして
光が気持ちよく入る空間に**

オフ時間を
楽しめる家

11



人が自然と集まれる家にしたい

コーヒースタンドのような マルチスペースをつかった家

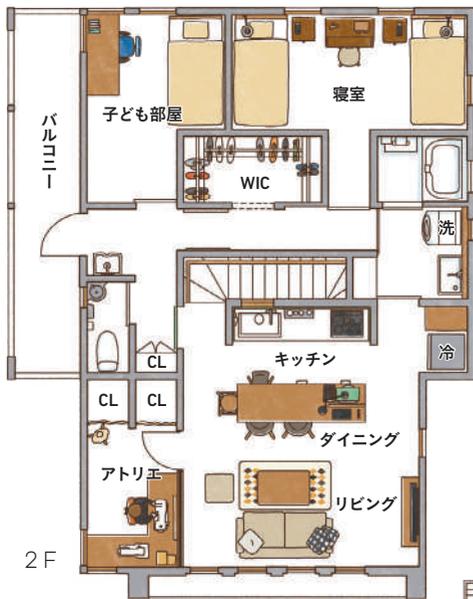
菅原さん邸

OWNER'S VOICE

東京・馬喰町のイーグルビルを
オマージュした外観に

濃紺のクラシカルなタイルに縦長の窓が、レトロモダンな空気を醸す菅原さん邸。東京・馬喰町にある名建築「イーグルビル」を彷彿させます。引き戸を開けると、そこはまさにカフェ。クリエイターである菅原さんの仕事場として使うほか、時には家族や友人と過ごすカフェへと早変わり。2階にLDKを配置し、その一角にアーティストの奥さまのアトリエを設けました。「それぞれが自分の作業に集中しながら、合間にリビングに集まるのがわが家のスタイル」と菅原さん。自宅に仕事場がありながら、オンオフをつけやすい間取りのおかげで、日々の暮らしが充実しているそうです。

FLOOR PLAN



住宅DATA

竣工：2021年12月

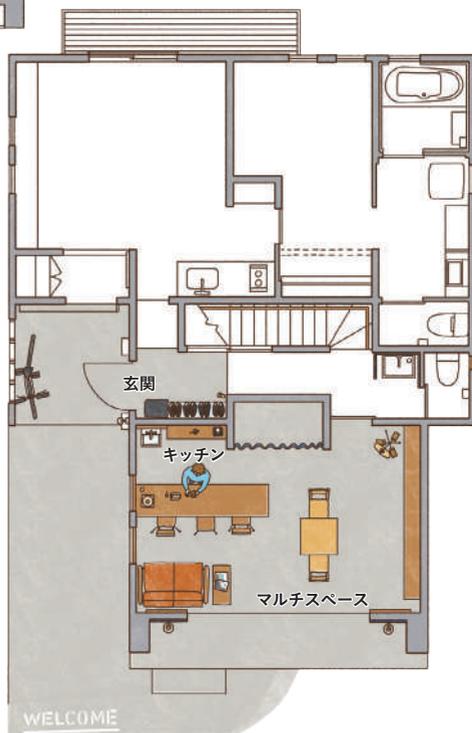
延床面積：146.57㎡ (44.33坪)

(1階/73.70㎡ 2階/72.87㎡)

構造・工法：2階建て(木造軸組工法)

設計・施工：HUGHOME

夫婦と子どもが暮らす菅原さん邸。二世帯住宅で2階部分が菅原さんの居住スペースです。見どころは1階のマルチスペース。東京の歴史あるヴィンテージビルをオマージュしたというデザインで、室内もカフェそのもの。



1F

WELCOME



建物の正面にあるマルチスペース。引き込み式の引き戸にしたことで、カフェのような大きな開口をつくれます。

キッチンをつくり 土間スタイルにして お店としても使える仕様に

カフェのような家に憧れる人が多いなか、本当にカフェ空間をつくったのが菅原さんです。床はコーヒースタンドでよく見られるコンクリート仕上げで、本格的なキッチンもあります。ふだんは仕事場として活用していますが、休日はコーヒーをいれて家族で会話したり、子どもがお菓子を食べたり、ママ友とお茶したりと、家族それぞれがマルチな使い方で楽しんでいるそう。オンオフを切り替えるため、仕事道具をしまうためのクローゼットを設けて、カーテンや扉で隠せる工夫もあります。

POINT

お客さまも使える 手洗いを1階に配置

マルチスペースではアーティストとして活躍する奥さまの作品販売会を行っています。来客時に役立つよう、手洗い場をマルチスペースの北側の廊下に配置。LDKがある2階につながる階段もあり、手を洗ってから家になれるのもいいところ。



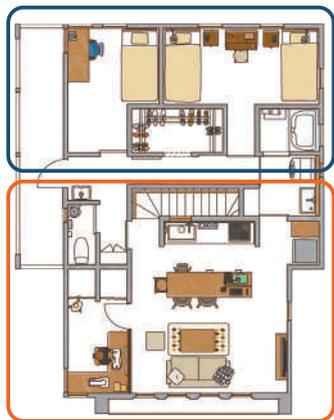
廊下を境に北側を個室

南側をLDKとゾーニングして

オンオフをつけやすく！

二世帯住宅の菅原さん邸では、2階が家族の居住スペースです。ワンフロアの空間のなか、廊下を境にLDKと個室を分けているのが特徴。リビングで家族が会話している間、廊下を間に挟んでいるので個室は静かです。また、サニタリーやトイレなどの共用部を、どこからでもアクセスしやすい廊下付近に設けたのはお手本にしたアイデアです。

プライベートゾーン



パブリックゾーン



キッチンの左右に廊下につながる動線を設けて、回避できる間取りに。掃除するときにも無駄な動きがありません。

内窓を設けることで 作業しながら家族の気配を感じ取れます



反物をリメイクしてインテリア小物などを作るアーティストとして活躍する奥さま。3畳ほどのアトリエをLDの一角に設けました。室内には反物のサイズに合わせて作った収納棚を造作。南に面しているので明るく、心地よく作業できます。ポイントはキッチンから近い場所にアトリエを配置したこと。作業後はすぐに調理へと切り替えやすくなります。また、完全に仕切らず、内窓を取り付けたので、LDにいる家族の様子がわかるから安心です。

POINT

目的によっては
LDから離れた位置に



ゲームやギターのように音が出るような趣味を楽しむ場合、書斎はLDと違うフロアにしたり、防音壁を設けたりしたほうが安心です。

二世帯住宅で気にすべきは 音対策と水道光熱費



**完全分離型なので
ほどよい距離感を
保ちながら生活できます**

二世帯住宅の菅原さん邸では、1階には菅原さんの義伯母と祖母が暮らしています。玄関を2カ所用意し、共用部分のない完全分離型です。二世帯住宅で押さえておきたいことのひとつが音対策。菅原さん邸では、2階の足音が1階に響きにくいよう防音シートを敷き、寝室の上に寝室を配置しました。もうひとつが水道光熱費。メーターが1つだとどちらがどれくらい使ったかわからないので、メーターを世帯ごとに分けました。そのほうがお互い余計な気をつかわずに済みます。